

大学院（保健医療学研究科）臨床検査学専攻 博士前期課程 1年の仲山佳歩さんが日本医療検査科学会第56回大会で優秀演題賞（JACLaS Award 2024）を受賞しました。

令和6年10月4日～6日にパシフィコ横浜で開催された日本医療検査科学会第56回大会において、仲山佳歩さん（保健医療学研究科 臨床検査学専攻）が「JACLaS Award 2024 優秀演題賞（大学院生部門・Award II）」を受賞しました。仲山さんの受賞演題は、「Fabry病診断に有用な生化学自動分析装置による α -galactosidaseA活性測定法の開発」です。

この賞は、一般社団法人日本医療検査科学会（JCLS）と一般社団法人日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会（JACLaS）が、臨床検査を修学する大学院生を対象に募集した中で、優秀な演題に贈られます。受賞者決定と講演のご案内ポスターは[こちら](#)（別ウィンドウで開きます。）をご参照ください。

【受賞学生のコメント】

この度はJACLaS Award 2024 優秀演題賞(大学院生部門・Award II)を賜り、大変光栄に感じております。同時に、大変身の引き締まる思いです。学会の企画・運営に携わられた関係者の皆様、選考委員の先生方、これまでにご指導いただいた先生方、共同研究者の皆様など、関わっていただいた全ての皆様に深く感謝いたします。

受賞の対象となった研究は、ファブリー病に関連する酵素である α -galactosidaseAの活性を生化学自動分析装置で測定する方法です。本研究が少しでもファブリー病の診断に役立つ事を願っております。

今回の受賞を励みに、今後も研究に精進し、医学・臨床検査学の発展へ貢献できるよう励んでいきたいと思っております。この度の受賞について、重ねて深くお礼申し上げます。

